

➤ 9日 土曜

エゼキエル



15:1 次のような【主】のことばが私にあった。

15:2 「人の子よ。ぶどうの木は森の木立の中にあって、ほかの木より枝がどれだけすぐれているのか。

15:3 何か役に立つものを作る木材が、そこらとれるというのか。それとも、何かの器具を掛ける木鉤を作ることができるというのか。

15:4 見よ。それは薪として火に投げ入れられ、火がその両端を焼き尽くす。その中まで焦げてしまえば、それは何の役に立つだろうか。

15:5 見よ。それが完全なときでも何も作れないのに、まして、火がそれを燃やして焦がせば、それで何が作れるだろうか。」

15:6 それゆえ、【神】である主はこう言われる。「わたしが薪として火に投げ入れた、森の木立の間のぶどうの木のように、わたしはエルサレムの住民を火に投げ入れる。

15:7 わたしは彼らに敵対して顔を向ける。彼らが火から逃れても、火は彼らを焼き尽くす。わたしが彼らに顔を向けるそのとき、あなたがたはわたしが【主】であることを知る。

15:8 彼らがわたしの信頼を裏切ったので、わたしはこの地を荒れ果てさせる——【神】である主のことば。」

ぶどうの木は細くて木材にはなりません。実を結ばなければ何の役にも立たないのです。イスラエルは実を結ばなかったので、「森の木立の間のぶどうの木のように、火に投げ入れてしまうと主は仰せられます。

ヨハネの福音書で、主イエスは「15:5 わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れて

は、あなたがたは何もすることができないからです。

15:6 だれでも、もしわたしにとどまっていなければ、枝のように投げ捨てられて、枯れます。人々はそれを寄せ集めて火に投げ込むので、それは燃えてしまいます。」と言っておられます。

実を結ばないのは、イエス様の中にとどまっていけないからです。自分自身に力がなくても、失敗を重ねていても、イエス様にとどまっている人は、イエス様から恵と喜びと力をもらい、イエス様の喜ばれることを楽しみとして生活します。そのような毎日を生きて、すばらしい実を結びましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

